

電動漁船で環境保全

国頭村漁協が実証試験

二酸化炭素(CO₂)の排出削減が可能な省エネ効果の高い電動漁船の開発に向けた実証試験が国頭村で始まる。アイティオー(本社・愛媛県)などの共同研究機関コンソーシアムが水産庁の事業採択を受けた。2010年度の同庁事業において電池と電動モーターの搭載により、燃料費削減率約84%の成果を挙げた電動船外機漁船1隻を国頭村漁協で活用させ、水産業の燃料経費改善やサンゴ礁などの海洋資源の保全などを目指す。28日に同村漁港で進水式を行い、実証試験が始まる。

洋上実証事業は、電動船外機や地域性によるデータを集める。機船開発のアイティオーのほ

か、海洋水産システム協会(東京都)と越智造船所(愛媛県)が連携する。環境保全の流れから国内の水産漁業分野では電動漁船の技術開発が促進されており、今回の事業

も国頭村を含め、三重県、北海道の全国3カ所で漁業種類

燃費改善、CO₂削減期待

う。CO₂排出削減もでき、海にやさしい漁ができる。1日2時間以上は運用していく」と期待。「実証により太陽光発電での蓄電が可能なシステムに改良されていく計画もあると聞く。県内ではモスクなどドリーフ内での養殖が盛んで、同漁船が広く普及していく可能性がある」と話した。国頭村での洋上実証について、アイティオーは「沖縄の水産業は離島も含め、燃料経費改善や海洋資源の保全が課題となっている。電動船外機船やそれを含む電動漁船の普及で、漁業生産者の経営改善と重要観光である沖縄の海を守りながら、次世代につながる新たな取り組みになるかもしれない」と話している。

減では大きな成果が出るだろう

金城信幸参事は「燃料費軽